

# 登場人物とポイントになるセリフ

※ポイント は学習のポイントになるセリフです。  
ポイント①②は6ページ、③④は7ページ  
⑤は8ページに解説があります。



**大谷ちひろ**  
(平山あや)

特別養護老人ホーム  
「向陽園」主任介護士



**中嶋直也**  
(大野拓朗)

「向陽園」新人介護士  
アスペルガー症候群



**乾 一成**  
(石橋蓮司)

「向陽園」入居者  
元大学教授

## 新人・直也の教育係になる

※ポイント①

ちひろ 「裏に名前が書いてあるから覚えてね」  
直也 「でも、私、まだ入居者の顔と名前が一致しません」  
ちひろ 「大丈夫。少しずついいから」  
直也 「少しずつ、というのは一日に何人くらい顔と名前と食器を覚えればいいんですか？」  
ちひろ 「？」

## ちひろに仕事を教わるが失敗の連続

ちひろ 「こんなにこぼしちゃって」  
直也 「でも、早くって言われたので」  
ちひろ 「いや…。いい？素早く、かつ丁寧に」  
直也 「素早く…丁寧に… (混乱)」

## 気難しく、ホーム内で孤立

※ポイント①

ちひろ 「(乾さんは)プライドが高いつつ、いか気難しいというか、他の入居者とも全然交流がないの」

## 直也と意思の疎通がうまくいかず、いら立ちと不安

※ポイント②

ちひろ 「何、あの受け答え。謝る時には素直に謝りなさい」  
直也 「え？私は質問に答えただけですが」  
ちひろ 「そういうことじゃなくて！人の気持ちを考えなさいって言ってるの！わかるでしょ、それくらい」

## 乾に対して、心のままに接する

## 直也の言動に怒りながらも興味を持つ

乾 「勝手に並べるな、順番がある」

乾 「覚えていたのか。…70点だな。順番は完璧だが、並べ方が不格好だ」  
直也 「不器用なんです」  
乾 「私の採点は厳しい。70点なら上等だ」

## 直也と意思の疎通がうまくいかず、いら立ちと不安

※ポイント①

ちひろ 「中嶋くん、大丈夫でしょうか」  
小柳 「まだ初日ですよ。うまくいなくて当然ですよ。温かく見守りましょうよ」  
ちひろ 「何かこう、話が通じないっていうか空気が読めないというか…」  
小柳 「確かに彼はちょっと変わってますけどね悪い人間には見えませんが」  
ちひろ 「でも、変わった人っていうのは、たいてい、困った人なんですよね」

## 直也と意思の疎通がうまくいかず、いら立ちと不安

※ポイント②

ちひろ 「あのね、物事には優先順位ってものがあるでしょう」  
直也 「はい。だから、歯医者が先約です」  
ちひろ 「だから違うでしょ！菊子さんは息子さんか会いに来てくれるのをずっと待ってたの。何回も言ってるでしょ。人の気持ちを考えなさいって」

## 直也と乾の良好な関係を見て、希望を持つ

## 交流を深める



## 乾が直也と外出した先で、倒れる

## 直也に失望し、思わず罵る

ちひろ 「何でそんな遠くまで連れ出したの」  
直也 「いや、金山川はそんなに遠くないです」  
ちひろ 「それは元気な人間にとってでしょ。何でそんなこともわからないの。あなた、やっぱり介護士に向いてない」

## 3日続けて欠勤

久美子 「中嶋くんは、今日もお休みですか。まあ、このまま辞めてくれてもいいかな。あの子、何か普通じゃないもんね」  
ちひろ 「・・・」

※ポイント④

## 入院



次ページへ

直也の母が向陽園を訪れ、  
直也がアスペルガー症候群であることを告白。



＊ポイント③

好子 「直也はアスペルガー症候群なんです」  
ちひろ 「アスペルガー？」



好子 「大学を出て何とか就職はしたんですが、仕事が覚えられなかったり、人間関係の行き違いがあったりで、すぐに辞めました。本人も自信を失ってしまい、うつ病のような症状が出たので、病院に連れて行きました」  
小柳 「じゃあ、直也さん本人も知ってるんですね」  
好子 「はい。あの子は子どもの頃から人の気持ちを読み取るのが苦手で、いじめられたり、問題児扱いされたり。私も育て方に問題があったのかと悩みました。でも、脳の機能の問題だったんだ、自分たちが悪いわけじゃなかったんだって」

好子 「障害のことを周りの人に話しておいた方がいいかと思ったんですが、主人が反対しまして」

ちひろ

直也の障害を知り、葛藤。  
直也と乾のことが気になる

＊ポイント③

ちひろ 「障害のこと、言ってくればよかったのに」  
小柳 「知ってたら、主任はどうしてましたか？」

直也

自信を喪失している

乾

ちひろに対し、直也への思いを語る

乾 「大谷さん。あんたはよくやってる。(中略)いつも笑顔で辛抱強く接している。だが、中嶋は違う。それができない」  
ちひろ 「乾さん、気づいていたんですか」  
乾 「ああ…。あいつといると、こんな私でも素直になれる。あいつに、建前も本音もない。ただ、自分に正直なだけだ。そういうふう生まれついたんだ」



ちひろと乾、直也に会いに行く

＊ポイント④

＊ポイント①

ちひろ 「私ね、困ってたの。自分の気持ちや言いたいことが、なかなか中嶋くんに通じなくて。でも、中嶋くんも本当は困ってたんだよね。私が何を言いたいのか、わからなくて」  
ちひろ 「ごめんね。私、あなたの気持ち考えてなかった」

直也 「前の職場では、怒られてばかりだった。何でこんなこともできないのか。使えない、普通じゃないって。だけど、普通が何かわからない。他の人と同じようにしたくても、できない。人の気持ちが分かってることが、私には分からないんです」  
乾 「人の気持ちなんてものは、そう簡単にわかるもんじゃない。考え方も、感じ方も一人ひとり違う。自分は人の気持ちなんか簡単にわかると思ってるやつは傲慢だ」

乾 「しかし、人間、自分一人じゃどうにもならんことばかりだ。いやでも人に関わらなければやっていけない。生きていくのは大変だ」  
乾 「中嶋くん。キミはこれからも生きづらさを感じることもあるだろう。そんな時は、この老いぼれを思い出すがいい。キミを必要とする人間は必ずいる」  
直也 「私はいてもいいんですね」  
乾 「当然だ」

＊ポイント②

＊ポイント⑤

秋桜の咲く場所へ



直也の障害を理解し  
職場環境を改善

再び向陽園で働く

亡き妻を思いながらも、  
直也らと今を生きていく

その他の登場人物

小柳泰三

「向陽園」のホーム長



小柳 「人間もジグソーパズルみたいですね。同じように見えて一人ひとり違う。違うからこそ、組み合わせると面白いんですよ」

＊ポイント⑤

宮地久美子

「向陽園」の介護士



久美子 「これ、分かりやすい。これなら中嶋くんも間違えないね」

＊ポイント⑤

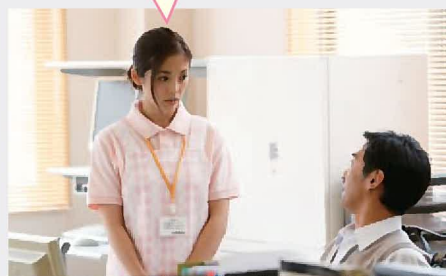
## 学習のポイント①

## 変わっている人は、困った人？

少しずつ、というのは一日何人くらい顔と名前と食器を覚えればいいんですか？



でも、変わった人っていうのは、大抵、困った人なんですよね



### 解説

自分にとってコミュニケーションの取りにくい相手、言動が理解できない相手を、「困った人」と決めつけていませんか？

ちひろにとって、話がかみあわない直也、そして、プライドが高く、気難しい乾も「困った人」でした。

価値観や生活習慣は、人それぞれ。自分が理解、共感できないからといって、すぐに「変わっている」「普通ではない」と決めつけ、関わることをやめるのではなく、まずはいったん相手をそのまま受け入れてみませんか。そうすれば新たな視点や、相手の立場に立った接し方が見つかるはずです。

「困った人」は、本当は「困っている人」かも知れません。そして、その人の困っていることは、多くの人が困っていることなのかも知れません。

## 学習のポイント②

## 「人の気持ちがわかる」って？

人の気持ちを考えなさいっていつていつての！



私は人の気持ちがよく分かりません。でも、大切な人を亡くした痛みは分かります。



### 解説

アスペルガー症候群の特徴の現れ方の一つとして、他者に対する想像力や共感力に欠けるという点があります。しかし、喜怒哀楽の感情がないということではありません。感動もすれば、傷つくこともあります。また、体験や学習を通じて、相手の気持ちを推測することもできます。

私たちは悩みを相談されたとき、その人の立場に立ち、気持ちに寄り添うことができているでしょうか。自分の立場でアドバイスをしてしまった経験はないでしょうか。そもそも、乾の言葉※のように人はそれぞれに考え方や感じ方が違います。障害があってもなくても、人の気持ちをわかりたいと願うならば、まずは自分の思い込みや偏見を捨てる必要があります。

※乾「人の気持ちなんてものは、そう簡単にわかるもんじゃない。考え方も、感じ方も一人ひとり違う。自分は人の気持ちなんか簡単にわかんと思ってやつは傲慢だ」